

カラコンがある時代で良かった！

## ベラドンナ(有毒) (ナス科)



*Atropa belladonna* Linné

部位	根
生薬名	ベラドンナ根 (ベラドンナコン) <b>局方収載</b>
成分	(-)-ヒヨスチアミン、(-)-スコポラミン (トロパンアルカロイド)
薬理 用途	副交感神経抑制作用、中枢神経興奮作用 ベラドンナ総アルカロイドとして、鼻炎薬や 総合感冒薬などに配合。散瞳薬

ヨーロッパ、西アジアなどに分布するナス科の多年草。学名のbelladonnaは、bella：美しい donna：貴婦人を意味します。ルネッサンス期のベネチアなどで、女性が本植物の葉の汁を目に入れて散瞳させ、瞳を大きく見せたことに由来しているようです。本当に大丈夫だったのでしょうか？ この植物の葉などを経口摂取すると約30分で口渇が現れ、続いて嘔気や倦怠感、ふらつきや眠気が出現します。全般に有毒植物は花～根まで全てに有毒成分を含むことが多いので注意しましょう。日本には、本植物は自生していませんが、同じナス科のハシリドコロやチョウセンアサガオの食中毒も同じ成分によるものです。一方、医薬品としては、鼻汁を抑える作用があり、一般薬の鼻炎薬や総合感冒薬に「ベラドンナ総アルカロイド」として配合されています。

## ヒヨス(有毒) (ナス科)

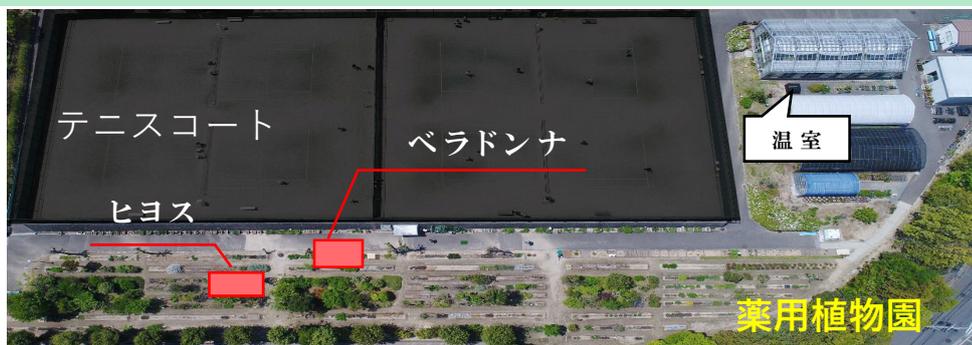
ナス科の植物は有毒なものが多い！

*Hyoscyamus niger* L.



部位	葉
生薬名	ヒヨス葉
成分	(-)-ヒヨスチアミン、(-)-スコポラミン (トロパンアルカロイド)
薬理 用途	副交感神経抑制作用、中枢神経興奮作用 アトロピン製造原料

ヨーロッパ原産の多年草または一年から二年草。ベラドンナと同様にナス科の有毒植物です。日本薬局方でも第7改正（現在は第18改正）まで収載されていました。医薬品の硫酸アトロピンや臭化水素酸スコポラミンなどの製造原料とされています。現在では、生薬として使用されることはありません。アトロピンは、(-)-ヒヨスチアミンが製造途中で変化して、光学不活性な(±)-ヒヨスチアミンになったものです。このアトロピンは、有機リン系殺虫剤の中毒やサリンの解毒薬としても使用されます。ナス科にはトマトやピーマン、ジャガイモなどの野菜も多いですが、有毒植物も多く、緑化したジャガイモや芽（葉も含む）によるソラニン中毒も注意が必要です。



ホームページでも  
ご覧いただけます